

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「組み立てを 考えて 書き、知らせよう」 教材名「こんな もの、見つけたよ / 【コラム】丸、点、かぎ」

2 単元の目標

句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(〔知識及び技能〕(1)ウ)

自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(B(1)イ)

見付けたものを紹介する内容を選び、順序が分かる文章にする学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)	①「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	①見付けたものを紹介する内容を選び、順序が分かる文章にする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

見付けたものを紹介する内容を選び、順序が分かる文章にする。この教材では、紹介の材料カードと順序を見直した文章を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教師作成の短い紹介文で順序の違いを比較する。本人の材料を消さず、今回の文章に使う物だけ選ばせる。想定する難しさは、見付けた順にすべて並べ、紹介の中心が曖昧になる。評価では、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えているかを、紹介の材料カードと順序を見直した文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～5	○紹介する物の名前、見付けた場所、特徴、自分の考えを材料カードにする。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	6～9 （本時）	○紹介する物の名前、見付けた場所、特徴、自分の考えを材料カードにする。順を替えて読み比べ、相手に伝わる構成を選ぶ。句読点とかぎの使い方も確認して文章を直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	10	○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導（6／10）

（１）本時の目標

自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（Ｂ（１）イ）

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	誰に何を伝えるかを確認、書く材料や最初の文を出す。 ○「読み手は、何を先に知ると紹介するものを想像できますか」 【めあて】見付けたものを紹介する内容を選び、順序が分かる文章にする。 〈予想される児童の反応〉 ・名前が後だと何の話が分かりにくい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「読み手は、何を先に知ると紹介するものを想像できますか」 紹介する物の名前、見付けた場所、特徴、自分の考えを材料カードにする。順を替えて読み比べ、相手に伝わる構成を選ぶ。句読点とかぎの使い方も確認して文章を直す。 読み手が受け取った意味を確認、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・名前が後だと何の話が分かりにくい。 ・話した言葉と説明を分けたい。	教師作成の短い紹介文で順序の違いを比較する。本人の材料を消さず、今回の文章に使う物だけ選ばせる。 想定する難しさ：見付けた順にすべて並べ、紹介の中心が曖昧になる。 評価では、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えているかを、紹介の材料カードと順序を見直した文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 紹介の材料カードと順序を見直した文章を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・話した言葉と説明を分けたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「読み手は、何を先に知ると紹介するものを想像できますか」。中央は、紹介の材料カードと順序を見直した文章に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

